

子どもがいなくなっても
ずっと続けていきたい

鶴峰西町内会立元班育成会会長

たなか ひろゆき

田中 博幸 さん(54)

現在、立元班に住む小・中学生は合わせてわずか7人なので、この先、白起こしができなくなる恐れがあります。子どもが減ったために、いろんな行事が消えてきましたが、行事は子どもの成長や地域の活性化に大切です。まだ、決めてはいませんが、もし、子どもがいなくなっても大人だけで続けるなどの工夫をして、できる限り、この行事を残していきたいと思っています。



白起こし

かのやし あいらちやう かんみよたちもとほん
鹿屋市吾平町 / 上名立元班

元日の夜中に行う
事始めの子どもの行事

鹿屋市の南部、吾平山上陵が残る吾平町の中にある上名立元班。この集落の子どもたちは、元日の深夜から二日の未明にかけて、一輪車を押しながら家々を練り歩きます。これは、一年の福をもたらす「白起こし」という行事。元日に休ませた白を、日付が変わると同時に杵でたたき起こして回り、無病息災や繁栄を祈願する正月の伝統行事です。

「100年以上前から、事始めとして夜中12時から行われていました。次第に子ども数が減り、白や杵のない家も増えたので、夜10時から早め、白の代わりに石やブロックを、杵の代わりに木の棒を使って行います」。こう説明してくださったのは、鶴峰西町内会立元班育成会会長の田中博幸さん。「白起こし」の主役は小・中学生で、その親が育成会のメンバーとなり、行事を見守ります。

「年の初めの黄金のこんつをつきおこす、コタコタコンコン……」。吐く息の白い中、玄関や軒先に置かれた白や石を、棒でたたく音

鹿児島には、古くから受け継がれてきた個性豊かな伝統行事・祭りが残っています。今回はそんな伝統行事の中から鹿屋市吾平町に伝わる「白起こし」をご紹介します。

に合わせ、全員で歌う子どもたち。歌い終えると、お供えの餅やみかんを一輪車に積み、30戸の集落を一軒ずつ2時間かけて回りまです。「子どもの頃は、終わった後にもらった餅やみかんを食べ、みんなと集会所に泊まるのが楽しみでした。今は泊まることはありませんが、親も一緒に食事をしながら遅くまで過ごします。それも楽しみです」と田中さん。餅やみかんは、子どもたちが後日、福祉施設におすそ分けするそうです。

楽しい思い出とともに、少しずつ姿を変えて守り継がれる「白起こし」は、地域のコミュニケーションにも欠かせない行事です。



鹿屋市

鹿屋市

鹿屋市は総人口103,772人(平成27年11月1日現在)のまちです。大隅半島のほぼ中央に位置し、豊富な自然と美しい海岸線を擁する、大隅地域の拠点都市です。写真は鹿屋市吾平町上名にある「吾平山上陵」。全国でも珍しい岩屋の陵で、神武天皇の御父君と御母君の御陵です。「小伊勢」とも呼ばれ正月には初詣客でにぎわいます。